

# 私の趣味

2021年6月12日  
太田隆次

私の趣味は古代日本人の笑いと仕草を調べることです。もともとは、福沢諭吉の「学問のすすめ」に「日本人は笑いが少ない」とあるのに「いや、昔の日本人はよく笑っていたのに」と思ったからです。

古くは縄文時代の土偶、万葉集、絵巻物、屏風絵、狂言、俳諧、川柳、俳画、東海道中膝栗毛などなど、なんのなんの私たちのご先祖様はよく笑っていたらしいですよ。

そのうち、現代人も身につまされるような笑い話を幾つかを紹介します。

## 1、「日本霊異記」（787年頃成立した日本最初の仏教説話集です）

第23はこういう話です。

「大和の国の添上郡（そうのかみのこおり）にある男がいました。母が苦勞して育て上げ、孝徳天皇の時代に大学寮を出たエリート官僚でした。

ある時、老母が息子に米を借りたが、秋の稲の収穫期に返せず、母は地面に土下座して息子に返済の猶予を願いました、息子はあくまでも稲の返済を求めました。その様子を見るに見かねた隣人が、その母のかわりに稲を立替えて息子に返済しました。

母は自分の乳房を出して泣き悲しみながら「私がお前を育てた頃は夜も昼も休む時がなかったものだ。今、お前は私が借りた稲を取り立てる。

それなら、私もお前に飲ませた乳をそっくり返して頂こう。天の神も地の神もみんなよく知っておられる」



## 2、「大鏡」（1025年、190歳の大宅世継と180歳の夏山繁樹という老人二人が、雲林院というお寺の近くで久しぶりに出会って昔話をしているのを、通りがかりの若侍が記録したという長い歴史物語です。話題は老人二

人が若い頃仕えていた藤原道長一太政大臣1017年の思い出話です)

世継の話の出だしの部分です。

「長い間、年老いた人に会って是非とも世の中の見ること聞くことなどを語り合いたいと思っていた所、あなたに会えて嬉しいですな。これで安心して冥途に行けますわい。

心に思っていることを言わないでいるのは、腹のふくれるような気持ちがするものですなあ。昔の人は、何か物が言いたくなると、その辺に穴を掘って言いたいことを穴の中に言い入れたものですよ」

### 3. 万葉集は笑い話の宝庫です

私達は「万葉秀歌」とか「万葉学者」とか、万葉集は何となく格調が高い近寄り難い存在と思われ勝ちですが、実際は庶民の喜怒哀楽の歌が多いのです。その例です。

- ・一二の目 のみにはあらず 五六三  
四さへありけり 双六の頭 (万葉集 三八二七番)  
(一の目、二の目だけではないぜ、五の目、六の目、  
三の目もある、四の目もあるぞ、この双六のさいころには)
- ・官にも、許したまへり 今夜のみ  
飲まぬ酒かも 散りこすなゆめ (万葉集 一六五七番)  
(役所でも 内輪の酒は許されているが 今夜しか飲めない  
酒かも知れないな どうか花よ散らないでおくれ)

コロナ騒ぎで、国民には酒の席の自粛を求めながら自分達は飲んでいた、どこかの役人たちの喜びそうな歌です。



#### 4. 正倉院は奈良時代の記録の宝庫です

昔はいつの時代でも紙は貴重でしたから、紙は使用済みの届出書などの余白や裏も使い回し、捨てられなかったものの一部が、毎秋、正倉院の御物展示で見られます。

戸籍、届出、休暇願、申請などに使用済みの届出を使い回していたことが分かります。それらを裏返したり整理して刊行されていますので、現代の私達も見ることが出来るわけです。

「写経所」の「労働条件改善要求書」を紹介しましょう。

「写経所」とは、仏教国教化のさなか、全国のお寺に配布するお経を筆写する役所（現代でいうとプリンティングサービス）のことです。

その要求内容が面白くて笑えるので、現代訳を横書きで紹介します

#### 「写経所」の現代語訳「労働条件改善要求書」（西暦739年）

- 一 新しい採用は暫く見合わせて欲しい。人が増えると紙もなくなり  
失業者も増える
- 二 仕事着を新品に替えて欲しい。墨で汚れ洗っても綺麗にならない。

- 三 毎月五日間の休みが欲しい。
- 四 三日に一度は酒を飲ませて欲しい。朝から晩まで坐ってばかりで体と脚が疲れる。
- 五 毎日、麦を賜りたい。
- 六 食事が悪い。米も中等でいいから玄米より白米を食べたい。

後記；上記の万葉時代と奈良時代の笑いについては「万葉時代のサラリーマン」という本を書いたことがあります。関西在住の方々に 6 月 20 日頃に郵送で謹呈させていただきますのでお読み頂ければ幸いです。（東京在住の方々には数年前の東京同窓会で差し上げたように思いますので今回の郵送は省きますが、私の記憶違いがあるかも知れませんので、恐縮ですがメールでご連絡頂ければ幸いです。よろしくお願い致します。